

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、愛媛大学白菊会に献体登録いただいた御遺体および消化管・腫瘍外科学講座で手術をされた方の術前画像を用いて血管の形態を解析します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、御遺体および術前画像を利用することをご了解いただけない方、ご家族は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

解剖遺体および 3D-CT を用いた中結腸動脈分岐形態の解析

【研究機関】 愛媛大学医学部 消化管・腫瘍外科学講座

【研究責任者】 大木悠輔（消化管腫瘍外科 助教）

【研究の目的】

現在、大腸がんに対する腹腔鏡手術が広く普及しています。右側大腸に発生する大腸がんに対して、リンパ節を一緒に切除する術式が一般的に行われています。大腸の中程の腸を栄養する血管として、中結腸動脈と静脈が知られています。また静脈が合流する場所として上腸間膜静脈が存在しています。栄養血管は知られていますが、その分岐の仕方については今までに研究されたものはありません。この栄養血管の分岐と上腸間膜静脈との位置関係を解析することで手術の際に有用であると考えられます

今回、これらの分岐の仕方を手術前の CT と愛媛大学に献体いただいた遺体を用いて、これらの動脈・静脈の分かれ方を解析することを目的としました。

【研究の方法】

① 2019年3月から2021年12月に愛媛大学白菊会で解剖に協力いただいた方。ホルマリン固定され、解剖に際してアルコール置換された献体遺体において、大腸を栄養する血管を確認します。これの分かれ方の形態および共通幹の長さを解析します。

② 2010年1月から2020年12月に当科で食道癌、胃癌、大腸癌の手術前に撮影したダイナミック造影 CT を用いて、3D 血管構築を行い、解剖遺体同様に血管の分岐形態、共通幹の長さおよび SMV との位置関係について解析します。

【個人情報の取り扱い】

献体遺体の情報は死因、年齢、性別のみが知らされているため、遺体個人の特定はできません。手術前の画像については、研究では匿名化を行い、個人を特定できないようにします。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部消化管腫瘍外科 大木悠輔

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 消化管腫瘍外科 大木悠輔

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5975